

## 産業編（漁業、農林業、鉱山業、商業等）

※産業編は、1945（昭和20）年以前の北方領土についての問題です。

- Q 1 北方四島が本土へ移出していた主な食品は？  
A：塩鮭                      B：米                      C：砂糖                      D：味噌
- Q 2 歯舞群島の水産物で根室に集荷され、国内はもちろん中国の上海にも輸出されていたものとは？  
A：サンマ                      B：ウナギ                      C：真珠                      D：昆布
- Q 3 北方四島が本土から移入していた主な穀類は？（ヒント：日本人の主食）  
A：米                      B：麦                      C：トウモロコシ                      D：蕎麦
- Q 4 国後島のトドマツやエゾマツなどの針葉樹は製材工場で加工され、木材は島内や根室地方で消費された。その主な利用目的は？  
A：家屋等の建築材                      B：漁船等の舟材  
C：ストーブの薪材                      D：線路の枕木材
- Q 5 北方四島では、馬は乗用や荷物の輸送用として飼育されていた。1945（昭和20）年8月当時の歯舞群島と色丹島の馬の合計飼育頭数は？  
A：8頭                      B：38頭                      C：638頭                      D：1,638頭
- Q 6 北方四島では馬のほか、畜産業もおこなわれていたが、飼育されていなかった動物は何？（ヒント：寒さに弱い）  
A：牛                      B：豚                      C：羊                      D：狐
- Q 7 鉱物採掘は1879（明治12）年頃始まった。択捉島の茂世路鉱山や国後島の瀬石鉱山などでは硫黄や硫化鉄が産出した。国後島の千島鉱山では、新潟県佐渡島の佐渡鉱山で採れる金属と同じものが採掘された。その産物とは何？  
A：石炭                      B：硫黄                      C：金・銀                      D：ダイヤモンド

- Q 8 北方四島の一番大きな産業は？  
A：水産業・水産加工業      B：林業      C：農畜産業      D：鉱山業
- Q 9 産業開発の原動力となる電気の発電施設で稼働していたものは何？  
A：水力発電所      B：火力発電所  
C：地熱発電所      D：天然ガス発電所
- Q10 北方四島の商店は各島ともさほど多くなかったが、人家が集まる村落には存在した。商店は、どのような場所の周辺に存在したか？  
A：漁港周辺      B：学校周辺      C：社寺周辺      D：魚の<sup>ふか</sup>孵化場周辺

## 戦前の北方四島とその暮らし

### 【江戸時代】

- ◎ 北方四島が古くから日本に統治されている土地であることは、さまざまな文献からも証明されています。1604（慶長9）年になると、蝦夷地は江戸幕府の命を受けた松前藩が治めるようになりました。松前藩は蝦夷地交易の独占権を持ちながら、北方四島と千島列島に住むアイヌ民族との交流をはじめたと考えられています。
- ◎ その後、1615（元和元）年にもメナシ（羅臼、国後地方のことを指すアイヌ名）のアイヌ民族の酋長エシラケが、多くの船を使って松前を訪れ、地元の人々と交流したという歴史的経緯を紹介する記述が松前藩の初期の記録「新羅（しんら）の記録」に記述されています。この記録によると、メナシ地方に住んでいたアイヌの人たちがラッコの毛皮を持ってきて、松前藩主に貢ぎ物として差し出したということです。

### 【明治時代】

- ◎ 明治時代は北海道本土をはじめ、北方四島と千島列島の開拓も随分と進められた時代でした。1880（明治13）年には新しい行政組織のもと、色丹島、国後島、択捉島の3島に村役場が置かれ、郵便局や小学校も設けられました。道路も港も整備され、しだいに住み良い環境が整えられていったのです。島への移住者が増えていったのもこの頃からでした。

### 【昭和時代・終戦時】

- ◎ 終戦時、北方四島には約17,000人の日本人が暮らしていました。また、各島に役場

が置かれ、郵便局、警察署、小学校等が設けられ、多くの人が水産業に従事していました。

◎ 終戦時、39校の国民学校などにおいて約3,000人の児童が就学していました。

## 戦前の北方四島の産業

◎ 北方四島の主要産業は水産業。四島周辺海域は暖流と寒流が流れ込んでいるため、豊かな水産資源に恵まれています。主な水産物は、コンブ／サケ／マス／タラ／スケソウ／タラバガニ／ナマコ等です。

◎ 1939（昭和14）年から1941（昭和16）年までの3か年の平均水揚高は、約21万トン（当時の金額で約5,200万円）で、北海道全域の23%を占めていました。

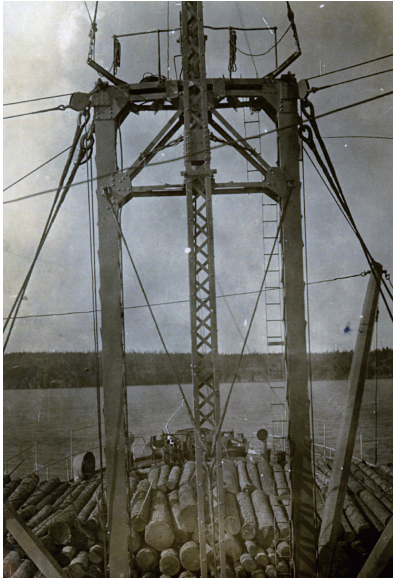
◎ 水産業のほかに、国後島や択捉島では、林業（針葉樹類）、魚類のふ化事業（サケ、マス）、鉱業（硫黄、硫化鉄、金、銀など）、また、国後島では畜産業（馬、牛、羊など）が行われていました。



択捉島 紗那村 紗那警察署



択捉島 馬牧場



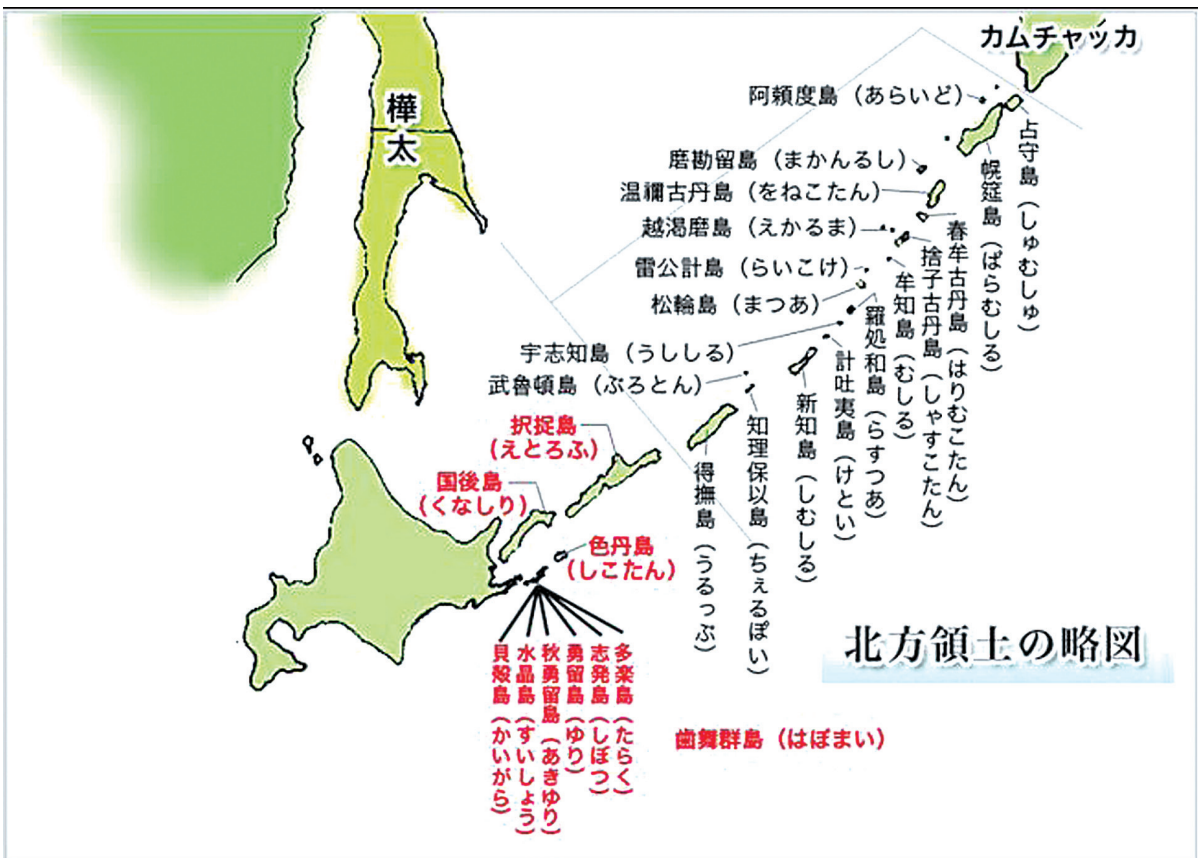
択捉島 材木の運搬



択捉島 久保田写真館



択捉島 大漁の漁船





国後島 お祭り



歯舞群島 学校 記念写真



泊村東沸尋常小学校望月珂玖司校長と共に古丹消へのスキー行途中で 昭和10年頃 左より、山下正三、小田部セキ、高橋栄三郎、遠藤ヨシ、清水虎亀与、山崎ウメ、高橋勇、佐久間フミ、望月校長、田中フサコ、佐野鳳瑞、渡辺妙子

国後島 泊村東沸尋常小学校のスキー



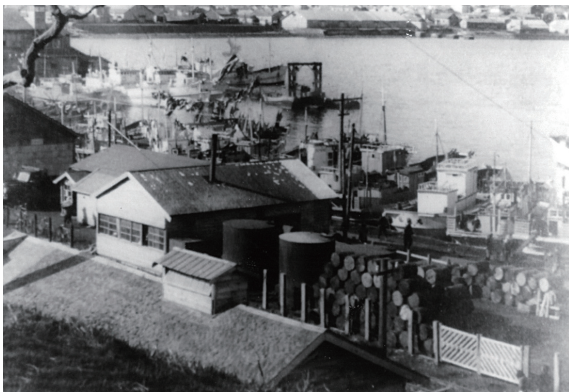
国後島 泊村の東沸郵便局



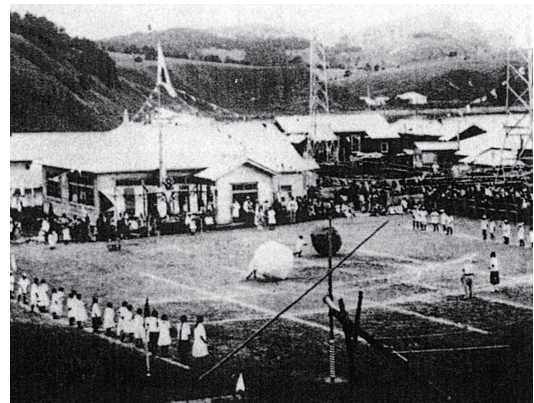
国後島 泊村東沸の缶詰工場



国後島の広大な畑



国後島の漁港



色丹島 運動会